第5期登別市地域福祉実践計画「きずな」策定に係る
地域福祉実践者アンケート 報告書

1. 調査の目的

第 5 期登別市地域福祉実践計画「きずな」の策定にあたり、登別市において日頃から地域福祉活動に携わっている町内会、民生委員児童委員、ボランティア、団体等、地域福祉に関わる実践者から現在の地域や活動をどのように捉えているのかを把握するため、アンケート調査を実施した。

本調査は、第 5 期「きずな」において、これまで地域で積み重ねられてきた実践をどのように引き継ぎ、現在の地域の変化に応じて何に向き合っていく必要があるのかを検討するための基礎資料として位置付ける。

2. 調査から見えてきたこと

今回の回答からは、地域福祉活動を支えてきた実践者が、地域におけるつながりや支え合いの大切さを感じながら活動している一方、担い手の高齢化や固定化、次の世代への引継ぎ、活動への参加者の広がりなど、これまでの活動を今後どのように継続していくかという課題も見えてきた。

これらの結果は、地域福祉を「これまでと同じ活動を維持すること」だけで捉えるのではなく、これまでの積み重ねを大切にしながら、より多くの住民が関われる地域のあり方や、世代を超えてつながる仕組みを考えていく必要性を示すものとなっている。

3. 調査概要

(1) 調査対象

登別市内において地域福祉活動に携わる実践者

(2) 調査期間

令和 8 年8月3日～令和 8 年8月21日

(3) 配布数・回答数・回収率

配布数：1,174 件、回答数：461件、回収率：39.3%

(4) 調査方法

郵送による配布・回収及び Web による回答

(5) 集計・分析方法

各設問について回答数及び割合を集計した。複数回答の設問については、回答数を各選択肢について集計しているため、合計が 100%を超える場合がある。

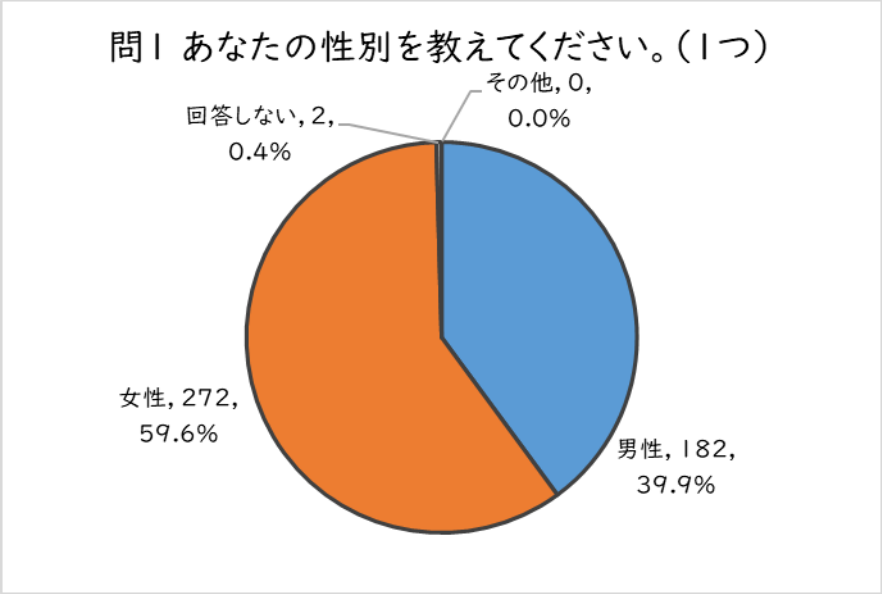
また、必要に応じて回答者の属性や主な活動分野等とのクロス集計を行い、回答傾向の違いを整理した。

自由記載については、回答者の意見をできる限りそのままとしながら、内容を整理して掲載した。

なお、割合については、設問ごとの有効回答数を分母として算出している。端数処理のため、割合の合計が 100%にならない場合がある。

問１　あなたの性別を教えてください。（１つ）

選択肢･項目	回答数	割合
男性	182	39.9%
女性	272	59.6%
回答しない	2	0.4%
その他	0	0.0%

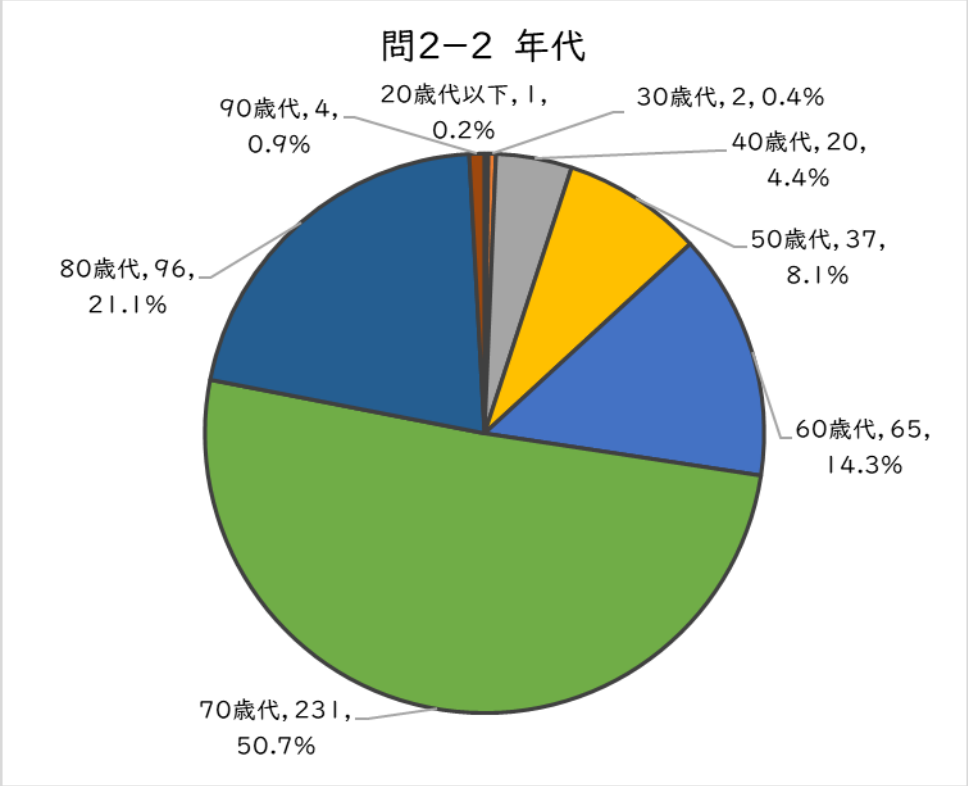


令和8年8月1日現在の、あなたの年齢を教えてください。(整数で記入)

選択肢・項目	回答数	平均
回答値	456 件	72.3 歳

問2−2 年代

選択肢・項目	回答数	割合
20歳代以下	1	0.2%
30歳代	2	0.4%
40歳代	20	4.4%
50歳代	37	8.1%
60歳代	65	14.3%
70歳代	231	50.7%
80歳代	96	21.1%
90歳代	4	0.9%

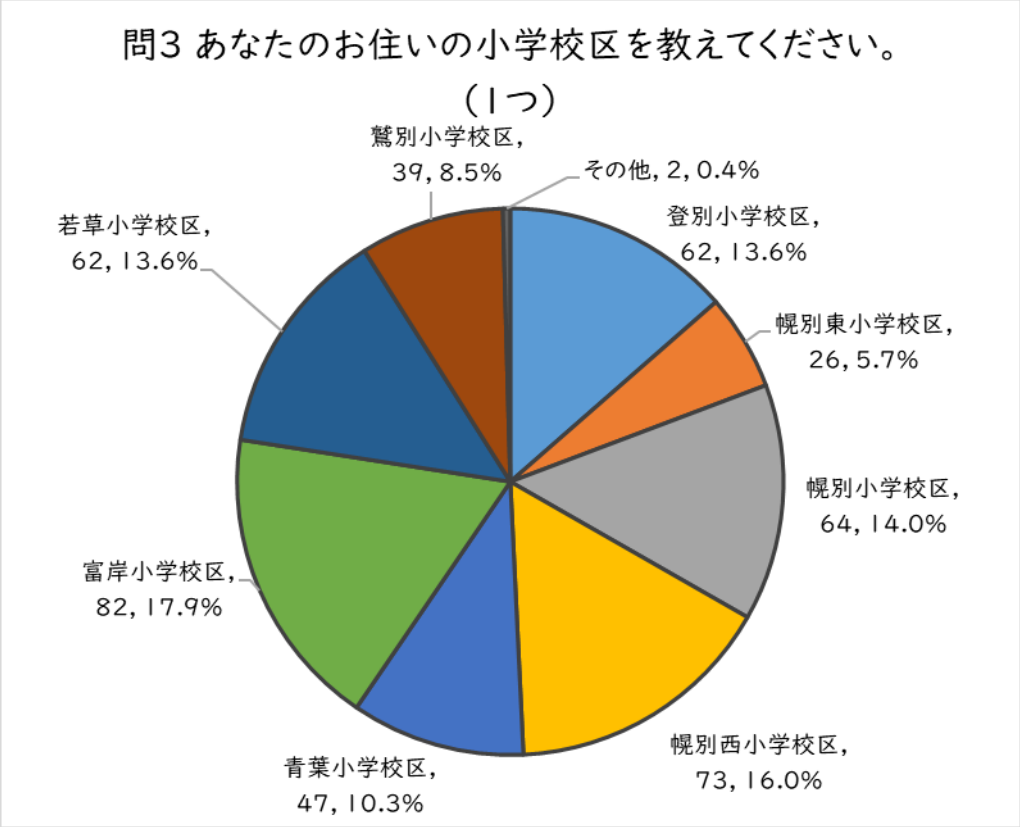


問３ あなたのお住いの小学校区を教えてください。（1つ）

選択肢･項目	回答数	割合
登別小学校区	62	13.6%
幌別東小学校区	26	5.7%
幌別小学校区	64	14.0%
幌別西小学校区	73	16.0%
青葉小学校区	47	10.3%
富岸小学校区	82	17.9%
若草小学校区	62	13.6%
鷲別小学校区	39	8.5%
その他	2	0.4%

自由記載：

･海陽小学校区(室蘭市日乃出町２丁目)



問４ あなたの携わっている福祉活動を教えてください。(複数)

選択肢・項目	回答数	割合
町内会・町会・自治会	307	66.6%
民生委員・児童委員	80	17.4%
サロンサポーター	73	15.8%
NPO法人	31	6.7%
ボランティア団体	103	22.3%
個人ボランティア	33	7.2%
きずな推進委員会	73	15.8%
ボランティアアドバイザー	12	2.6%
ファミリーサポート会員	29	6.3%
その他	31	6.7%

自由記載:

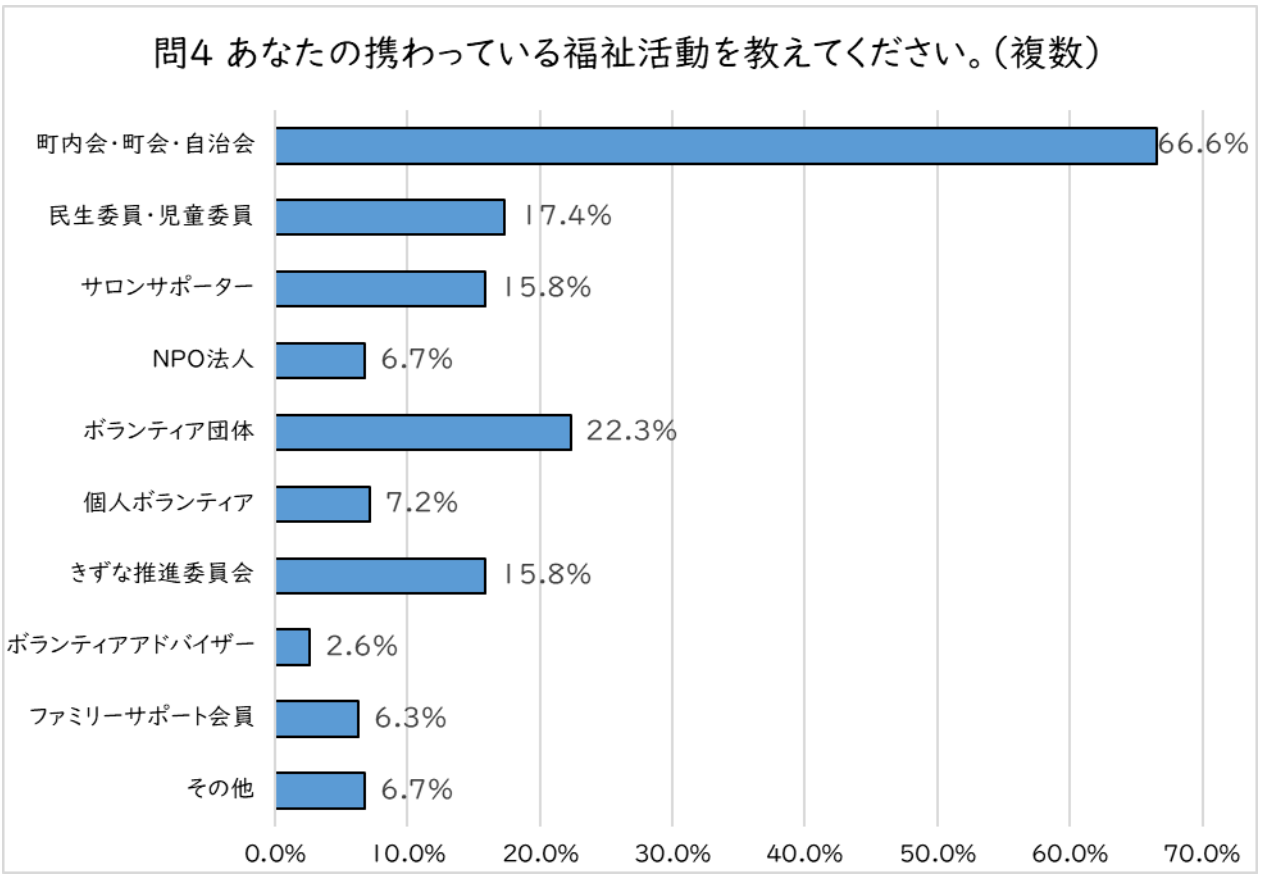
・鷲別中学校運営協議会委員
・来馬地区子供会育成連絡協議会
・現在は福祉活動のボランティアは辞めました。今はコーラスと生け花をやってます。
・みてネット配布(月２回)広報配布(月１回)福祉活動かどうかわからないけど
・サロンの手伝い 下校の見守り
・のぼりべつクリーン&フレッシュ
・生活支援員
・包括職員
・老人クラブ
・以前 民生委員、児童委員
・なし
・登老連
・小地域ネットワーク活動福祉委員
・老人クラブ
・手をつなぐ育成会
・認知症サポーター・障害者団体会員
・障がい者団体
・赤い羽根共同募金
・啓発活動
・社会教育団体
・若草ミナカフェ
・１ 高齢者クラブ
・障がい福祉

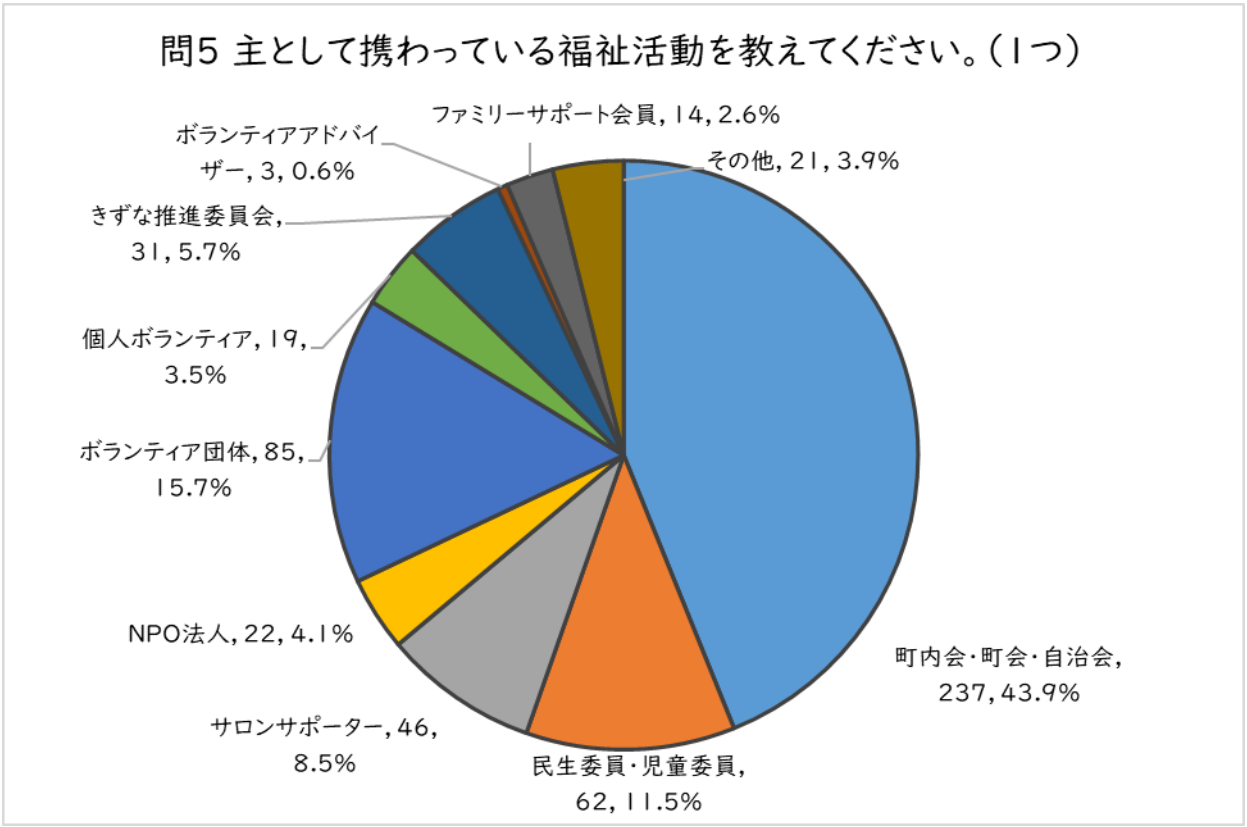
問５ 主として携わっている福祉活動を教えてください。（１つ）

選択肢・項目	回答数	割合
町内会・町会・自治会	237	43.9%
民生委員・児童委員	62	11.5%
サロンサポーター	46	8.5%
NPO法人	22	4.1%
ボランティア団体	85	15.7%
個人ボランティア	19	3.5%
きずな推進委員会	31	5.7%
ボランティアアドバイザー	3	0.6%
ファミリーサポート会員	14	2.6%
その他	21	3.9%

自由記載：

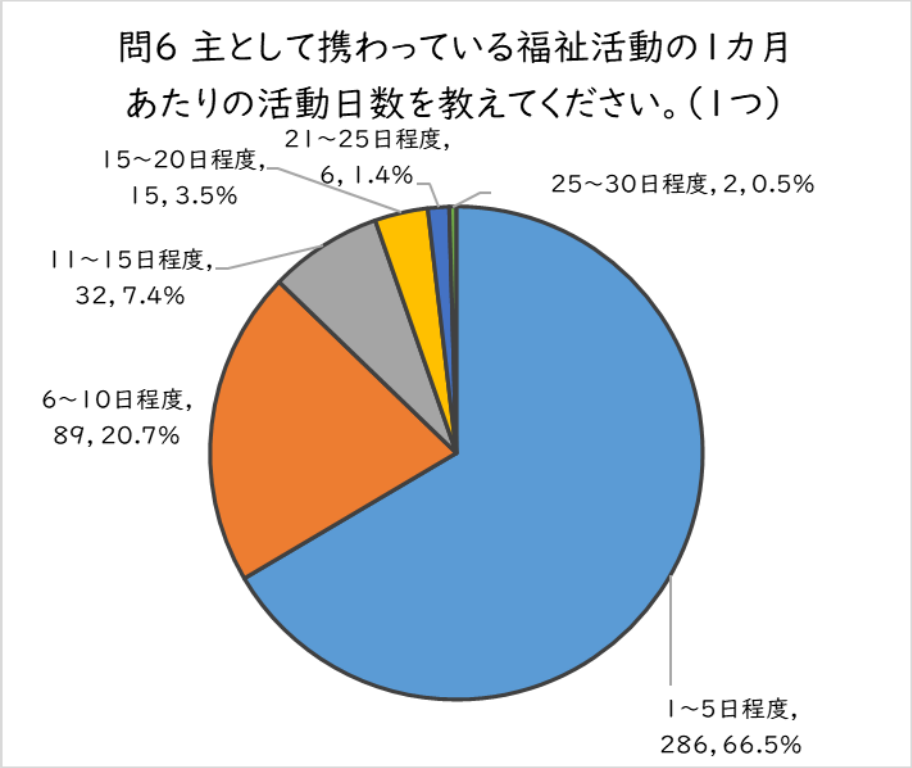
・のぼりべつクリーン&フレッシュ
・包括職員
・老人クラブ
・体調不良のため参加不可
・なし
・登老連
・小地域ネットワーク活動福祉委員
・個人サロン活動
・子供食堂
・社会福祉協議会
・老人クラブ
・市民後見人
・認知症サポーター・障害者団体会員
・障がい者団体
・啓発活動
・社会教育団体
・花つなの会
・仕事


問4 あなたの携わっている福祉活動を教えてください。(複数)
町内会・町会・自治会
民生委員・児童委員
サロンサポーター
NPO法人
ボランティア団体
個人ボランティア
きずな推進委員会
ボランティアアドバイザー
ファミリーサポート会員
その他
66.6%
17.4%
15.8%
6.7%
22.3%
7.2%
15.8%
2.6%
6.3%
6.7%
0.0%
10.0%
20.0%
30.0%
40.0%
50.0%
60.0%
70.0%


問5 主として携わっている福祉活動を教えてください。(1つ)
ファミリーサポート会員, 14, 2.6%
ボランティアアドバイザー, 3, 0.6%
その他, 21, 3.9%
きずな推進委員会, 31, 5.7%
個人ボランティア, 19, 3.5%
ボランティア団体, 85, 15.7%
NPO法人, 22, 4.1%
サロンサポーター, 46, 8.5%
民生委員・児童委員, 62, 11.5%
町内会・町会・自治会, 237, 43.9%

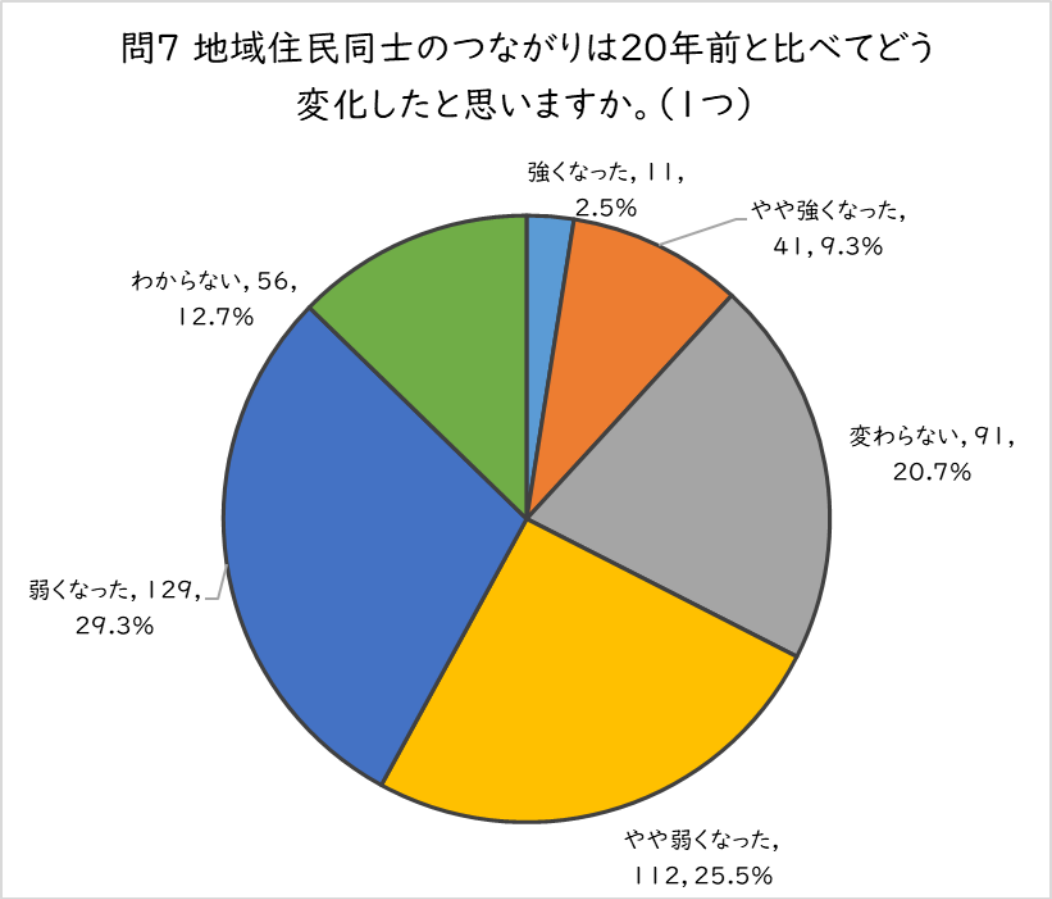
問 6 主として携わっている福祉活動の 1 カ月あたりの活動日数を教えてください。(1つ)

選択肢･項目	回答数	割合
1~5日程度	286	66.5%
6~10日程度	89	20.7%
11~15日程度	32	7.4%
15~20日程度	15	3.5%
21~25日程度	6	1.4%
25~30日程度	2	0.5%



問 7 地域住民同士のつながりは 20 年前と比べてどう変化したと思いますか。(1つ)

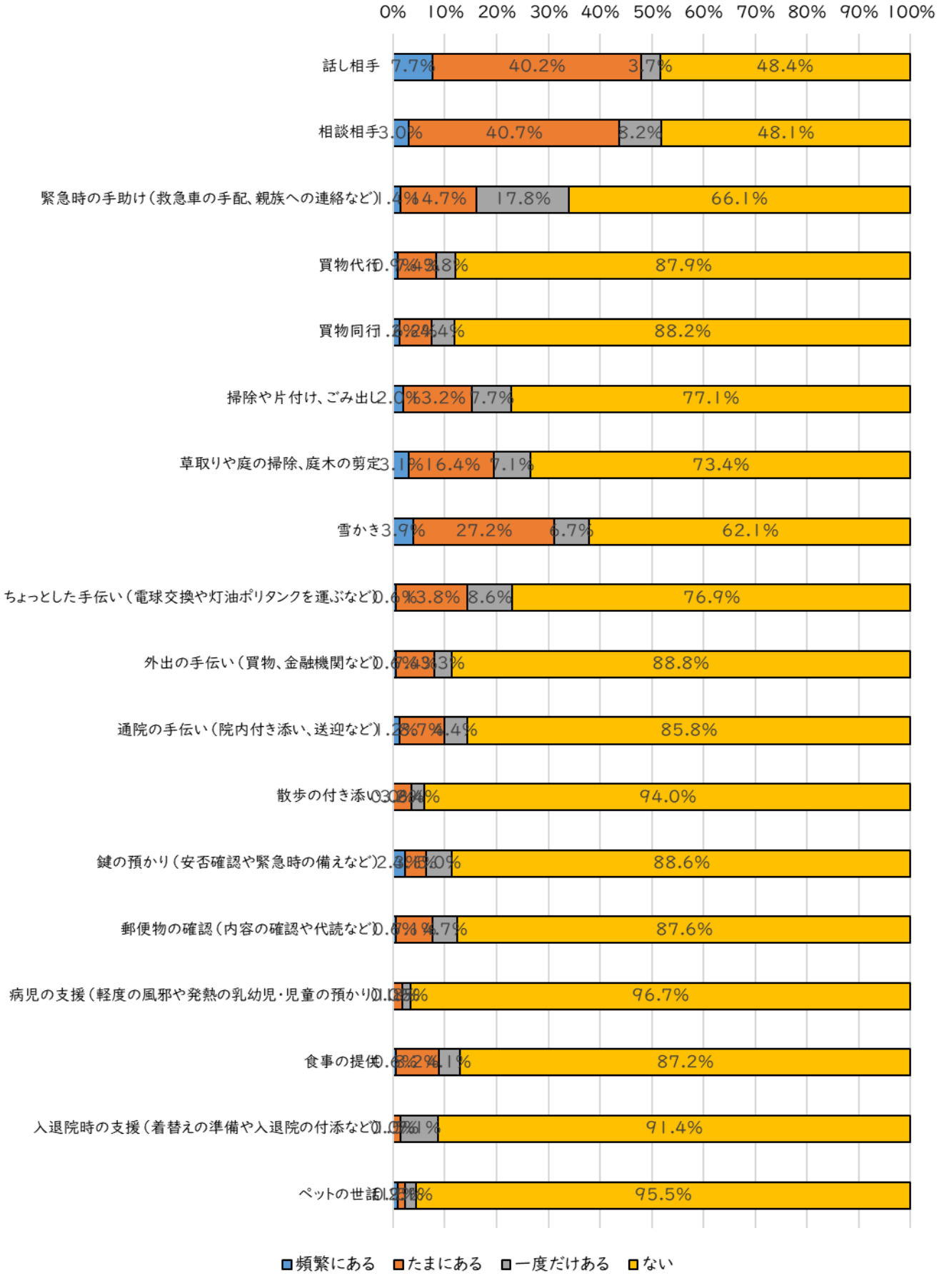
選択肢・項目	回答数	割合
強くなった	11	2.5%
やや強くなった	41	9.3%
変わらない	91	20.7%
やや弱くなった	112	25.5%
弱くなった	129	29.3%
わからない	56	12.7%



問８ 過去１年間で、地域住民から個人的に頼まれ、行った経験のあること、その頻度を教えてください。（各項目につき１つ○）

項目	頻繁にある	たまにある	一度だけある	ない
話し相手	29（7.7%）	152（40.2%）	14（3.7%）	183（48.4%）
相談相手	11（3.0%）	148（40.7%）	30（8.2%）	175（48.1%）
緊急時の手助け（救急車の手配、親族への連絡など）	5（1.4%）	52（14.7%）	63（17.8%）	234（66.1%）
買物代行	3（0.9%）	25（7.4%）	13（3.8%）	297（87.9%）
買物同行	4（1.2%）	21（6.2%）	15（4.4%）	299（88.2%）
掃除や片付け、ごみ出し	7（2.0%）	46（13.2%）	27（7.7%）	269（77.1%）
草取りや庭の掃除、庭木の剪定	11（3.1%）	58（16.4%）	25（7.1%）	260（73.4%）
雪かき	14（3.9%）	97（27.2%）	24（6.7%）	221（62.1%）
ちょっとした手伝い（電球交換や灯油ポリタンクを運ぶなど）	2（0.6%）	48（13.8%）	30（8.6%）	267（76.9%）
外出の手伝い（買物、金融機関など）	2（0.6%）	25（7.4%）	11（3.3%）	300（88.8%）
通院の手伝い（院内付き添い、送迎など）	4（1.2%）	30（8.7%）	15（4.4%）	295（85.8%）
散歩の付き添い	0（0.0%）	12（3.6%）	8（2.4%）	313（94.0%）
鍵の預かり（安否確認や緊急時の備えなど）	8（2.3%）	14（4.1%）	17（5.0%）	304（88.6%）
郵便物の確認（内容の確認や代読など）	2（0.6%）	24（7.1%）	16（4.7%）	297（87.6%）
病児の支援（軽度の風邪や発熱の乳幼児・児童の預かり）	0（0.0%）	6（1.8%）	5（1.5%）	322（96.7%）
食事の提供	2（0.6%）	28（8.2%）	14（4.1%）	299（87.2%）
入退院時の支援（着替えの準備や入退院の付添など）	0（0.0%）	5（1.5%）	24（7.1%）	308（91.4%）
ペットの世話	3（0.9%）	5（1.5%）	7（2.1%）	319（95.5%）

問8 過去1年間で、地域住民から個人的に頼まれ、行った経験のあること、その頻度を教えてください。



問９ 今後、地域の中でより重点的に取り組む必要があると感じることを教えてください。（複数）

選択肢・項目	回答数	割合
高齢者の安否確認、声かけ	339	73.5%
認知症高齢者の見守り、専門機関へのつなぎ	150	32.5%
障がい者の安否確認、声かけ	92	20.0%
子どもの下校指導、声かけ	140	30.4%
子育て世帯の孤立の見守り、専門機関へのつなぎ	51	11.1%
身寄りのない方の見守り、専門機関へのつなぎ	140	30.4%
買物、金融機関などへの外出の手伝い	40	8.7%
付添、送迎など通院の手伝い	54	11.7%
ごみ出しの手伝い	84	18.2%
雪かきの手伝い	173	37.5%
掃除、洗濯、調理など家事の手伝い	12	2.6%
サロン、交流の場などの居場所づくり	165	35.8%
体操、脳トレの実施などの介護予防活動	89	19.3%
避難支援、安否確認、要配慮者への支援などの災害時支援	177	38.4%
生活に困窮している方の見守り、専門機関へのつなぎ	48	10.4%
不登校の子どもがいる世帯の見守り、専門機関へのつなぎ	37	8.0%
ひきこもりの方がいる世帯の見守り、専門機関へのつなぎ	38	8.2%
ヤングケアラーがいる世帯の見守り、専門機関へのつなぎ	60	13.0%
障がい者の社会参加のきっかけや場づくり	54	11.7%
虐待の疑いがある世帯の見守り、専門機関へのつなぎ	45	9.8%
空き家の見回り	86	18.7%
ごみ屋敷の状況にある世帯の見守り、専門機関へのつなぎ	27	5.9%
地域活動の担い手不足	217	47.1%
福祉の情報が必要な人に届かない	69	15.0%
その他	10	2.2%

自由記載：

・挨拶などの日常的な事

・特別まだ自分で出来るので人のお世話をする年齢でもないので

・上記全て大切だと思うけど、私自身がお手伝い出来ない事柄もある。力がないからなどの理由で。

・会員名簿もなく、ますます希薄になっている事に心配している。

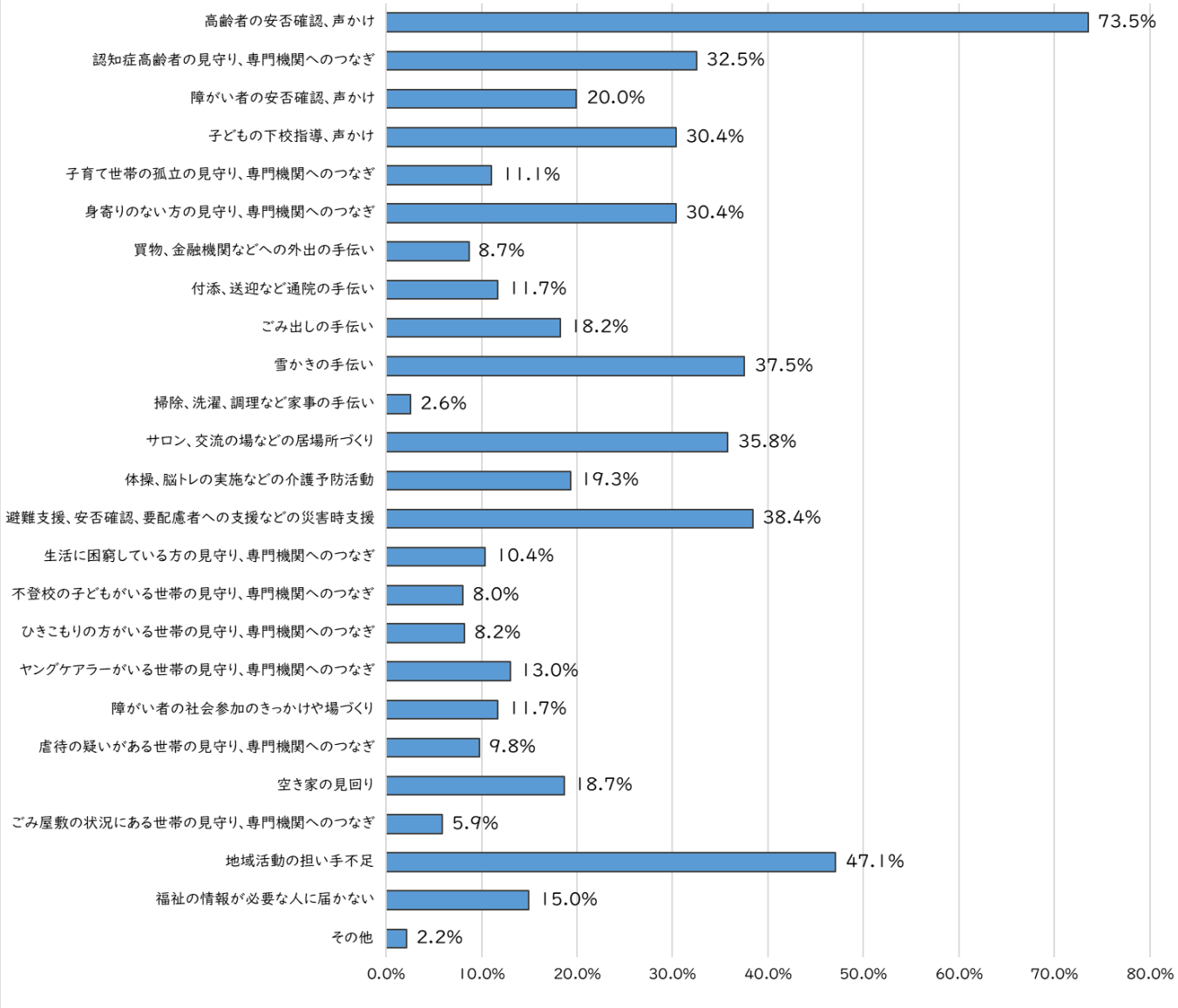
・地域住民同士が交流できる機会があると良いと思う。若い方々が活動に加わりやすい状況を整えて欲しい。

・自分が出来る範囲でしかお手伝い出来ない。体力がないし背も低いし、脚立にも上がれない。

・25 項目すべてが必要と思いますが、難しい事かと思います。

・ペットのはなし飼い、便の始末、ゴミのポイ捨て
・高齢者の交通手段の確保(足)
・救急車の代わりになる夜中に呼べるタクシー

問9 今後、地域の中でより重点的に取り組む必要があると感じることを教えてください。(複数)



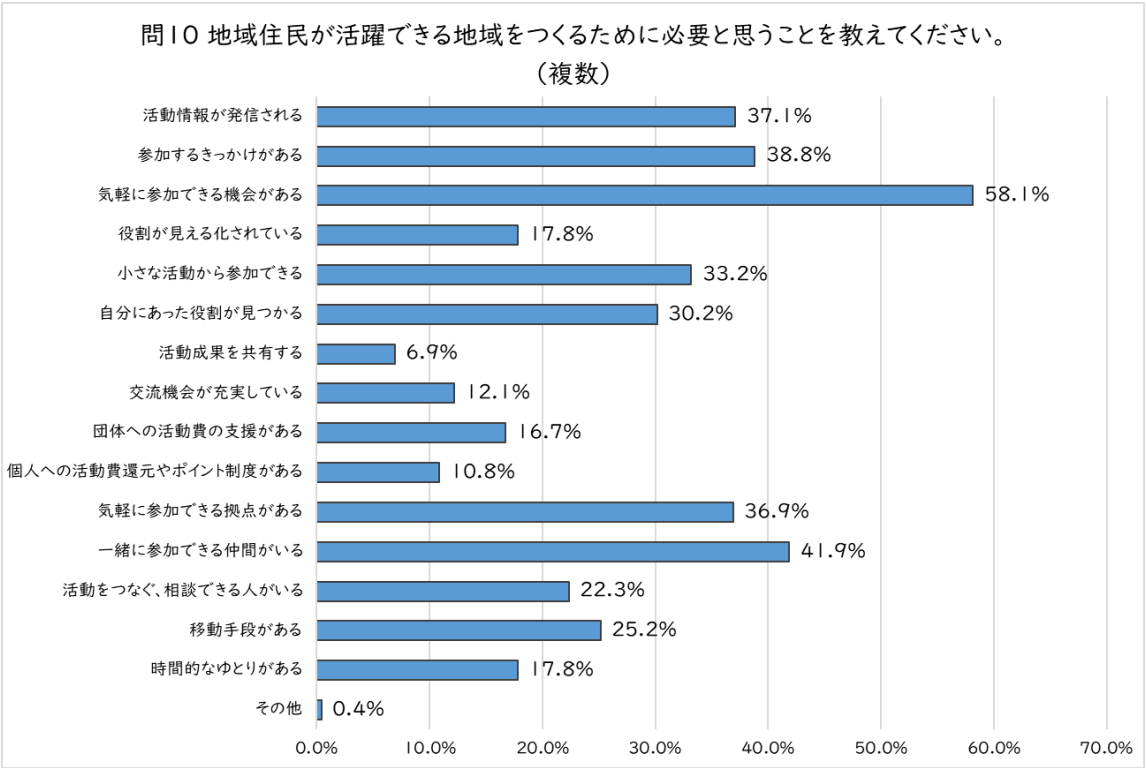
問 10 地域住民が活躍できる地域をつくるために必要と思うことを教えてください。(複数)

選択肢・項目	回答数	割合
活動情報が発信される	171	37.1%
参加するきっかけがある	179	38.8%
気軽に参加できる機会がある	268	58.1%
役割が見える化されている	82	17.8%
小さな活動から参加できる	153	33.2%
自分にあった役割が見つかる	139	30.2%
活動成果を共有する	32	6.9%
交流機会が充実している	56	12.1%
団体への活動費の支援がある	77	16.7%
個人への活動費還元やポイント制度がある	50	10.8%
気軽に参加できる拠点がある	170	36.9%
一緒に参加できる仲間がいる	193	41.9%
活動をつなぐ、相談できる人がいる	103	22.3%
移動手段がある	116	25.2%
時間的なゆとりがある	82	17.8%
その他	2	0.4%

自由記載:

・わかりません

・民生員の方との交流



問 11　若い世代と一緒に地域づくりを進めるために必要と思うことを教えてください。(3つまで)

選択肢・項目	回答数	割合
SNSの活用	92	20.0%
学校(小学校、中学校、高校)との連携	143	31.0%
大学・専門学校との連携	52	11.3%
ボランティアの体験	107	23.2%
地域についての学習	73	15.8%
子育て世代向けの企画	56	12.1%
短時間でも関われる取り組みの充実	130	28.2%
気軽に関われる機会	211	45.8%
企業との連携	21	4.6%
活動内容の見直し	62	13.4%
ベテランと若手の交流	100	21.7%
活動の見える化	106	23.0%
その他	5	1.1%

自由記載:

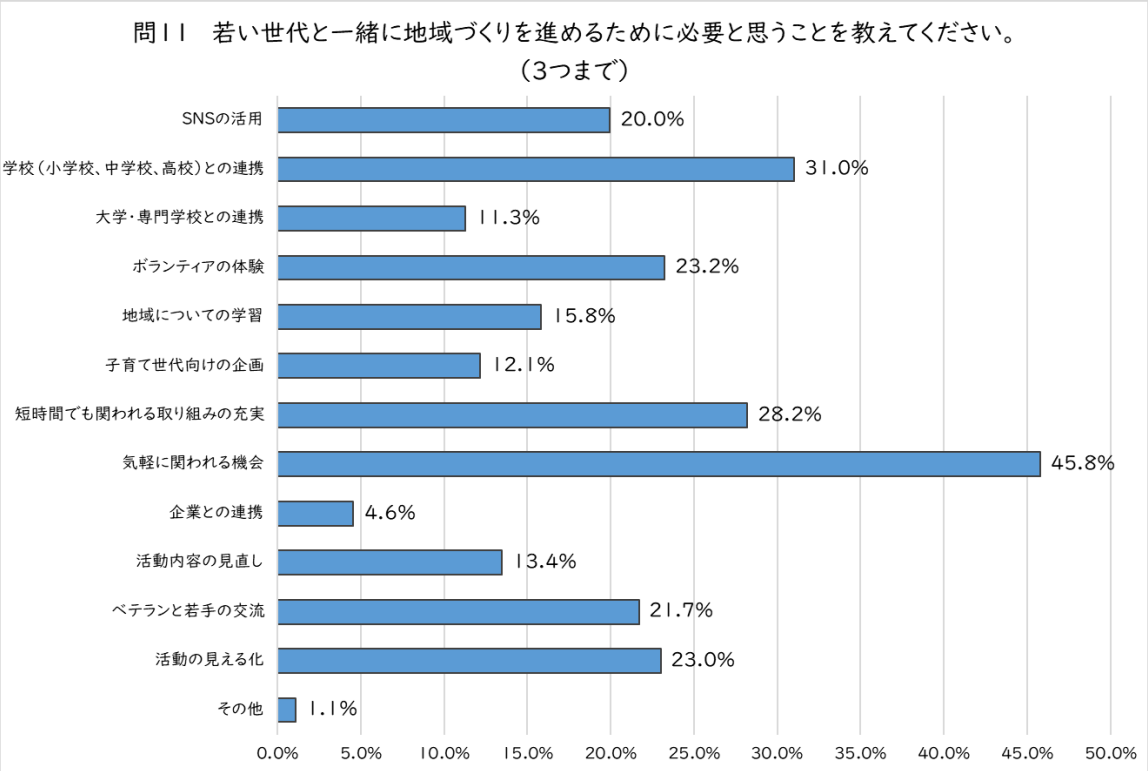
・難しすぎてわからない。SNS が使えない。

・若い世代と昭和の世代との考え方とギャップの差

・わかりません

・自分がスマホを使いこなせないと言うか、SNS とかに手を出したくないかな。電話でのやりとりする方が間違いがおこらない。

・広報



問 12 子ども・若者世代に伝えたいと思う地域の良さ、強みを教えてください。（自由記載）

・私の町内会では子供にクリスマスプレゼントをそりに乗せて参上します。24 年度、雪の降る中をじじサンタが一家一家廻っていました。なんか感動して涙が出てきました。子供たちの(喜ぶ)声、雪、ネオン(赤青)子供たちは忘れないと思います。
・町内会に入らない家庭が増えているが地域に住むからには、何かと楽しい事や助けられることがあるから是非参加して欲しいと思います。
・活動情報の内容と発信です。
・登別には温泉が有り、川が有り、海が有り、自然がたくさん有ります。若い世代に登別の良さを感じてもらいたい。
・毎年恒例のイベントや行事を地域で助けあい、協力しながら楽しく行う事をつなげて行く事。
・公園が多く、子供達が自由に遊ぶことが出来る。それゆえ老人と子供の交流がある。
・外灯の完備で夜中でも暗い所が少ない。子供会みたいな団体や、その活動を町会ぐるみで支援している。
・自然の豊かさ。登別の歴史や先住民アイヌのこと。
・若者達がもっと町内会活動や社会活動に参加して、気軽に関わってほしいと思います。
・今のところ「良さ、強み」はまだありませんが、町内会活動に「小、中高校生」をサポーターにお願いしている。いずれはいい結果が出ると思う。
・現在おじいちゃんやおばあちゃんとふれ合う機会が少なくなっていますね。色々と教えていただく事等、沢山あると思います。お互い、楽しい時間が過ごせる機会があれば良いと思いますね!!
・私も長い間、ボランティア人生でしたが、年齢もあり、此の頃は先に進めません。若い人に出てもらうよう努めております。
・近所のおじいちゃんおばあちゃんが元気な子供たちをみまもっているよと伝えたい。
・うちの町会は、子どもの行事が4行事もあり、それぞれの参加者も多い。それには子育て世代の役員が必須。
・町内会活動の衰退が叫ばれる今日ではあるが、我々町内会は老若男女が参加する行事を実施している点！
・学校病院スーパー公園があり住みやすいところだと思います 新生町
・自然豊かなまちであること、学校の生徒数が減少しているのは残念ですが、顔の見える距離感が近いところが良い点だと思います。
・特にありません
・思いつかない
・近くのスリランカの若者が 5 名程(市内の工場に技術習得の為)住まいをしているが、実に明るく人なっつこさが見て取れる。地域の人々に仲良くしたいといってるが楽しみである。
・子供さんの少ない地域ですので中々難しい問題と思っています。
・登下校の見守り、パトロールなど地域住民の方々が参加し続けている。
・地域での高齢者と道で会った時には、挨拶をする事の習慣づける。
・年齢がいくと機械が苦手になる。携帯も操れない。S NSって何の世界の人が多い。

・会議を十分に行う
・子供が少なくなって来ているが、不登校指導、世代間交流(昔の遊び)で若草小の生徒と交流にいるがこれからも続けていきたい。
・穏やかな人々が多い。
・明るい希望が見つかりません。
・都会から比べるとまだまだ自然の豊かさや人間関係の温かさが残されていると思う
・町の中心から離れた所に位置し、町内独自の祭りや催し物開催にまとまりやすい
・交流の場が少ないと思います
・東小学校当時にあった「駒踊り」を是非とも続けてほしい。又、盆近くになると「タイコ」の音が聞こえなくなり非常に淋しく感じます。
・町内会で子供会育成部があり、子供会、七夕祭りを行い、子供と子どもの親との接触を高めて、交わう。神社祭典でお祭りに多くの子供を参加させ、参加料を支払、弁当、お菓子等を多く与えて満足してもらう。七夕祭りには、花火とお菓子を多く与えて、満足している。
・町内会で育成部があり、七夕祭り、お祭り、ラジオ体操など参加し、子どもとのコミュニケーションを保つ。
・公園、街中にゴミ等が無く快適に過ごせる街作り。
・大人の行事に一緒に活動。お祭り以外に何か？
・老人と若い人との接点が少ない事。
・声掛けを行う。・挨拶を行う。
・引っ越して来て間もないのでまだよくわからない。
・町内会や地域の行事に参加して現状を把握して欲しい。
・七夕祭りや苅田神社のおみこし等には、町内外の人達も友達を通して参加して下さっているのはとても嬉しい。
・今私の回りには、小さい子供が少なくて接する事が数少なくて良くわかりません。
・暖簾に腕です。
・地域には様々な仕事を経験してきた方がいるので、その個人個人の経験を活かし、交流できると子供達や若者世代に伝わることが出来るのではないかと思います。イベントの工夫が必要なのか、きっかけが難しいので町内会広報に工夫が必要と思います。
・子どもたちと地域の人との交流がある。特に児童の登下校時の見守り、声かけなどなど!
・図書館を充実させ、図書館を中心にいろいろな活動していくといいと思います。
・自身の知識、能力の向上を目指す。前向きに行動されている方がいる。
・世代間の繋がりが気薄な時代にあって、かつての楽しかった経験を次世代へバトンタッチする努力は惜しまずにする思いはある。
・普段から挨拶をしたり、体調を気遣ったり、何気ない会話をすることで顔見知りになり、緊急時など助け合う事ができる。
・近所同士の横のつながりが有る。・町内会のイベントも気軽に参加出来て楽しめる様な空気感有る。若者の参加も割と多い。

・ここは道営住宅です。100軒ほど居ます。みなさん高齢者です。これから子ども若者たちに町内会行事に参加してもらう事が大事だと思います。なかなか参加してもらえません。
・かつての子供会活動 キャンプ、お祭りなどで親がつながり、子供同士がつながった数十年前の良かったところを何とか若い世代に伝えていこうと思っている。※地域とのつながりが気薄になっている…
・我々がまだ若いころは、町内化にも子供達が多数おり、祭りやキャンプなど、子供を介した繋がりがあったが、残念ながら子供が少なくなり、そうした繋がりがなくなった。
・自然が豊かぐらいしかない。
・現在居住している地域は住民同士のつながりが強い地域なので困り事がある場合は相談しやすいと思う。
・登別市経済発展のため若い人にも活動していただきたい。
・学童、子供(小・中学生)への交通安全について町会としては毎年“人と旗の波、街頭啓発運動参加”を通して学童に交通安全意識の啓もうを図っている。今後も地域の行事として継続して実践してほしい。
・地域では高齢者が多くなり、活動は限られますが、人との繋がりは大切にしており、お互い助け合っております。これから若い方々の活動には、皆さんで協力して、明るい町づくりを進めていけるよう願っております。
・小さい子供を育てる今の若いお母さん達は、地域の活動にはあまり興味があるとは思わないですが、人と人とのつながりがやはり必要だとは思います。
・近くに子供の遊べる広場があり毎日子供達の声が聞こえ元気をもらえます。それにともない子育て世代の人々が集まって来ます。
・創立記念祭 ・もちつき
・盆踊りなど楽しみを高めるさそいあいがほしい
・豊かな自然環境と温泉観光地、地元のブランド・特産品、地域や町内会ごとのイベントやお祭り、これからのまちのためにどんなことができるかと考え形にしていこうとする方達が沢山いらっしゃること
・人間一人では生きていけないことを子どものころから親が確りおしえる
・いつでもどこでも、子供達、若者達が気軽に活動できる地域です。 ・皆、優しく困ったことがあれば、いつでも相談にのってくれる先輩がいます。
・子供食堂(大人を含む)を広範な形で推進したい。
・狭い地域だからこそ交流して、お互いに学びの場になると思うが、小学生などは、アイサツしたり声をかけると変出者(?)と思われ走って逃げる。何ででしょう?
・若者世代がいない
・地域の良さがわかりません
・温泉、豊かな自然、穏やかな気象状況があること。
・核家族化が進み、近所との交流も少なくなっている現状ですが地域の良さは、子供達を見守り、災害時にはお互いが助け合うことが出来る。

・町内会活動を通じての交流の場を広げる。
・私達が若者とゆっくり話がしたい。
・町内会活動の中で現在行っている、敬老会、夏祭り、ラジオ体操、クリスマス会、餅つき会、ひな祭り、七夕まつり、節分など、季節に応じた催し物は続けたい。
・社協の講習会にて学校帰りの子等に朝の挨拶ではなく「お帰り」の声掛けに少しづつ返事が返ってくるとのスライドを見せていただいた時、これは高齢の方々でも出来るのではないかと思い、サロン等で小さな声掛け運動に参加して欲しいと話していく。地域一体化しないと子等もとまどうのではないか。
・当地域の子ども行事には楽しいことがたくさんありますので是非参加してください。・盆踊りフェス、・花火大会・冬まつり、その他いろいろあります！
・子どもを巻き込んだ町内会事業（イベント）では親御さんが付いてくるので、その中からお手伝いしてくれる方を発掘していく。
・子ども向け、町内会活動が多くあるので積極的に参加していただきたい。
・海も山も温泉もすぐ近くにある条件を生してほしい
・①道路の脇などに花(芝桜も含む)を植え、雑草を取ってきれいな町内会となってる。 ②毎年町内会でお祭りを行い、子供みこしなどで、子供達に楽しんでもらってる。
・町会の人達の動きをよく見てほしい。(たとえば花植えとか資源回収とか)
・正直、あまり思い浮かばない。強いて言えば、気候や自然災害のリスクが少ない点での住みやすさはある。長期的な視点で町づくりそのものを根本的に見直して子ども達が将来も地元に住みたいと思う町の魅力を作っていくべきでは？
・町内会活動に参加して行うことで、存在を知ってもらえ、なんかあった時の相談相手になってもらえたり、助力を期待できる。孤立化を防げる。
・町会でのサロン(週1回)など自分たちでの交流など(お祭りなど)とても良い事です。若い方も少しずつ交流出来れば良いと思います。小学生との挨拶、見守りなど。
・優しい声掛け。何気なく見守り。地域の大人はさりげなく連絡して、若い人や子供の幸福を願って気配り、目配りしています。
・子供達が挨拶をしてくれること。(他地域ではないことです) ・町内方々の顔が分かる。 ・近所づきあいがまだ残っている。(良好な関係)
・顔見知りになる事で、目が行きやすくなり、見守ってもらえる。
・若い世代が役員行事に非協力的に見えてしまう背景には「関心がない」のではなく、「共働き、子育てでは物理的に時間がない」「従来の自治活動(集会、回覧板)作業など」の負担感が大きすぎる、「どのようなメリットがあるのか見えない」といった理由があるのでは。若い世代を「巻き込む」のではなく「自然に関わりたくなる仕組みを作る」ための具体策と、アンケート等でアピールできる「地域の良さ、強み」の伝え方を考えて行きたい。
・安全な街
・近所付き合いと気持ちの良い挨拶が多い😄

・年配者が結構いるので、子供や若者に、パソコンや、ネットなどからの情報だけで無く、体を使って体験する事が必要だと年配者の体験を元につたえて実践させることが必要です。
・町内会の行事やお祭りに参加してほしい。
・住みやすい地域、生活するのに便利な地域であること
・登別は観光地でもあるので、市外や道外や国外の人たちともふれ合う機会がある地域だと思います。
・地域全体で子ども達を見守っていくことができる
・1.近隣者からの子育て援助　2.時間に余裕ある高齢者の社会貢献
・何かあった時に顔や名前、何処のお家の子どもだということを地域の方が知っているとすぐに親に連絡が取れたり、身の回りの困り事を相談できたりと町内会に入っていることで助かることがきっとあるのではないかと思う
・町内会が頑張っている
・学校を通じてボランティア活動への積極参加を要請。(ゴミ拾い等)
・「きずな」計画のように、市としての全体で福祉に関わることを実践している。子供や若い人達にことばの大切さ、使い方の実践しながら伝える場があるといい。
・思い当たりません。
・地域のつながりは、最低でも学校との関わり方で情報が共有でき、とのことを実践できている事。
・なかなか難しい問です。
・祭り
・自然が豊かで温泉が近い
・地域住民が参加出来る事業が通年開催されている。
・子供の笑顔を使ってくれる人がいる
・子ども会議のような活動を発展させ、子ども自身のことを考えええる場から、異年齢・障がい者など地域全体を考える場になっていくとよいと思います。
・自己の利益ばかり追求しないで、他人への思いやりを持ってください。
・町内居住の人達の人柄の良さ
・地域差が大きいのではないでしょうか。新興住宅地域と高齢者が住む地域がどうしても片寄っていて交流が難しい。
・わからない
・地域の良さがわからないので伝わりにくいのだと思います
・永年、住んでる人の団結力がある
・町内会行事で様々な世代との交流があり、皆が楽しめる機会が多くある。
・地域では子供さんや若者の大切さを思い、手を差し伸べたいと思っています。
・年代が違うと考え方も違うので、新鮮な発見があるかもしれないので、たくさんの若者世代に関わってもらいたい。
・夏休み中、子供ラジオ体操がない。私は体操をしたいのに？
・便利で住みやすく、安心して暮らせる

・近所の人や町内会関係者の声掛けもある方で、困ったことも相談しやすい所。・スーパー、駅も近くにあり、むろらんの会社にも通いやすく、便利さ
・子供、若者に向けた事業(行事、活動等)が数多くあります。但し、眞￥皆さんが気軽に参加できる範囲気づくりが大切と思います。
・地域皆が子供や若者の成長を期待し見守っている。子育て世代にもっと積極的に町内会行事に参加してほしい。アプローチはしているのですが。
・しぜんの豊かさ
・顔が知っている間柄だと子供たちに声掛けしてくれたり気にしてもらえる。
・海が有る山がある温泉もある 特急は必ず停まる。インターがあり札幌にも1時間。雪は少ない。
・外国人観光客・残留外国人と交流して知識をひろげてほしい。
・当町内会は以前から安心して暮らせる人とのつながりや子供達を地域で見守る町内会です。世代を超えて、つながれる場所です。
・地域の人同士が支え合う温かいつながりがある事が、この地域の良さだと思います。お祭りや町内会活動などを通じて世代を超えて交流できることも強みです。子供や若者がこの地域に住んでいて良かったと思える、安心して暮らせる地域を次世代につないでいきたいです。
・困りごとがあれば必ず誰かが助けてくれるか、どこかに繋げてくれる人たちがいること。
・他市で子供に声をかけると不審者に思われると言われた事があります。登別の子供や若者はみずから挨拶をしてくれます。お互いに声をかけ合うことは明るい気持になり、将来にとっても良い事と思います。
・他市で子供に声をかけると不審者に思われると言われた事があります。登別の子供や若者はみずから挨拶をしてくれます。お互いに声をかけ合うことは明るい気持になり、将来にとっても良い事と思います。
・近所のつきあいを大事に我が子の見守りにもつながっていいのではないか。最近は、忙しく子供の姿が見えない。公園で遊んでいる子はほとんどいない。子育ての時は、誰となく見守っていた気がする。
・町会の祭典など地域のつながりができる。でも年々色々な行事がなくなっているのが寂しい

問13 地域福祉活動を進めるうえで感じていることや、今後必要だと思うことを自由にご記入ください。（自由記載）

・登別市の「介護予防活動リーダー」を育成後の活動場所がないのが残念
・家庭外での交流を避けて引きこもり状態の方々が最近見られます。近くの施設、会館(?)お茶一杯で世間話が出来るようになれば良いなと思っています。サンダルばきで化粧などしなくても、話をしたい!聞きたい!最後には笑って帰れる様な活動が出来ますように!!
・人との繋がりが何より大事ですので町内かに入ることが一番ハードルが低く簡単な入口だと思います。
・参加する機会があり始めて知る事が多数あった。
・現在、町内会に入会しない人が増えています。地域福祉活動の妨げになっていると思う。何とかならないものか。義務化にできないものか。
・地域住民者だからと言って地域の福祉を担わされるのはどうなのでしょう。町内会会員の減少、役員の不足など活動範囲の量が多くなり過ぎているのが原因の一つではと思います。ボランティアの住民と包括などの専門家との役割の明確化も必要だと考えます。ボランティアはあくまでもボランティアです。
・気軽に入れる話せる雰囲気を皆で努力して工夫して造っていく事が必要。
・いろいろな活動企画に対し、自由に積極的に参加出来る雰囲気造り、若い人との意見交流を図る事と、参加できる機会を造る。
・後員、それにたずさわる人が限定的でる。リーダーが広く汗をかいて人選する要がある。あまりにも簡単に後員人事を決めているのではないか。
・若い人は働いている人が多いので、中々、地域参加は出来ないと思う。高齢者はボランティアの意識が低く集まらない。広報などで広く知らせる。
・私は77才になり1人暮らしで免許証返納しますが、活動に参加するには、交通手段を考えると近辺になりますね。
・これからの地域福祉活動は高齢者目線や考え方ではなく若者が中心。小、中、高校生を町内会の役員やサポーターとして取り入れた方が良いかも。
・高齢になると人と話す機会が少なくなります。認知予防にもなる為、気軽に参加できるサロン等増えたら良いですね。
・私が子供の頃は近所のおばあちゃんとも話ができたし、夏休みのラジオ体操も夏休み中ずっとありました。地蔵盆踊りとか・・・。今は子供も少ないし。何故少ないのか。もちろん欲しくても子供が出来なくて悲しい思いをしている方もたくさんいます。でも、子供が欲しくないという方もいますよね。子育てにお金がかかる・・・という理由ではなく、子供が嫌い、子育てに時間やお金を取られたくない、自由を奪われたくない。そういう人が多いのも現実です。自分自身が自分の親に感謝出来ない。親が嫌いなのかも・・・と思っています。そんな人達に手を差し伸べる事は出来ないのかな～と思ったりしています。
・町内会の活動が大変、大事だと思う。人と人とのつながりがあって物事が進みます。若い人たちが喜んで参加する機会を多く作っていけば良い。

・個別避難計画と地域福祉ネットワーク事業の連携を進めてください。(これからの地域福祉は真に支援見守りをする方の絞り込みをして進めなければならない地域の実情となっています。)(地域で支援する方の高齢化等)
・行政機関や福祉機関などの地域参加型が必要
・当町内会も独居老人が増え、買い物等の移動手段が徒歩かタクシーを使用している。体力的、また、金銭的に負担が多いので、月1回でも乗合タクシーサービスができないか。・郵便物を出すにしてもポストの所在場所が遠くて大変である。大型商業施設入り口近くに設置できないか。
・高齢化が進んでも楽しんで参加できる町会活動…と思っています。
・定年年齢が引き上げられ、また70歳まで働きたいという方が増えているので、役員改選時に人選の苦労が増している。やってみると、そんなに大変とは思わないけど。
・※60歳代の活動参加の推進
・物騒な世の中なので各町会で見回りを強化させる交代制で!!
・気軽に参加しやすい活動、楽しいと感じるような雰囲気が大切だと思います。
・町内会では花火大会、お祭り、焼肉パーティーと色々な行事を開催しているが、運営に携わっている人達もいるので町内会行事を営むことができる。近隣の工学院寮の学生たちも参加する機会があり、町内会参加者だけでは活気に欠けていたが、住民と触れ合う機会もあり楽しめるものとなっている。これからは、行事内容の工夫・役員の担い手が運営に欠かせないと思われる。
・訪問福祉活動をやる人が高年齢になっていくので、今後どうなっていくのか不安はあります。
・地域で年寄りの人の楽しい場所を作ってください　雪の多い時のなぜ家の前の除雪をしてくれないのか。役所にお願いしても私の家だけなんです。毎年大変です。誰も手伝ってくれません。税金はきちんと払ってますよ。
・活動を押し付けるのではなく自ら率先して行えるような仕組みづくりが必要だと思う
・小さなつどいの出来る仲間づくりがあると良いと思います。
・地域の福祉活動があまりよくわからない。
・若い方々は働いていますし、家に残っている方は高齢ですので福祉活動などは無理ですね。町内会の行事を進めるのが精一杯だと思っています。
・若者達の手配者への気配りなし→いかに??　登別市も高齢者への配慮なし。市を支えた人々への気配り・町内会への押し付け…
・70 代になってから体力の衰えが…(頭も?)　若い方々の参加があればなぁと思いますが、自分も若い時は仕事、子育て他で地域福祉活動は出来てなかったなぁと思い返しています。
・1,地域行事への参加を進める。2,民生委員、児童委員の方が積極的に独居高齢者の家に訪問し様子を見て頂きたい。3,買い物等の移動に、幌別中央のアーニス店までの乗り合い車の移動が望ましい。(登別地域だけでは利用者が少ない。料金が幾らか必要でも、白老町で行っているような方法だと利用増になると思います。そして高齢者が助かる。)
・高齢化が進んで若い世代の人が町会に興味を持ってもらえる様な町会になってほしいです。
・問 12 にも言えると思いますが、町内会にもっと参加して欲しい。町会の人も頑張ってはいるが、手が回らないようです。差し伸べたいがどう手を伸ばして良いのかわからない事が多い。

・会議を十分に行う。
・もう亡くなっているので送ってもらわなくていいです。ありがとうございました。
・町内会に加入しない若者達が多い、又高齢で町会の行事に参加したくても足(車)がなく送迎の問題も出てきている。
・活動に興味を持った方が気軽に加わると良いと思う。完璧でなくても、活動に加われる雰囲気があると良い。
・室蘭市のような、災害ボランティア事前登録が必要だと思う。前回の津波警報時、避難場所が開設された所とされなかった所とあったので、災害ボランティア団体等が出来るといいと思った。
・若い世代の方々の意見、アイディアを聞く事
・町内の中に若い人が少なく、皆、足腰が弱くなり自分の事で手が回らなくなり、町内会の活動も出来なくなり、老人ばかりと空き家だらけで大変です。
・『机上の空論』が頭に浮かびます。町内会に入会して 22 年携わったのが 14.5 年。少なくとも 14.5 年前からゴミステーションについて、町内会未加入者利用の不可に厳しい意見が交されていましたが、今に至っては隠しカメラを云々とまで聞こえてきます。きずなはお互いを思い合い助け合うと理解していましたが、思い違いしていたようです。こんな小さな事が 10 年以上も続いていて、他に何を変えられるのでしょう。他人様に迷惑をかけぬよう、こじんまりと笑いを交えて助け合っていきます。物云えぬ立場があるこることの何を多い事か経験不足が身に染みています。
・福祉活動が国や行政からの押し付け感と捉える人が増えていると思う。多くの人は福祉という言葉に現実味を帯びていない。自分には関係ないと思っている人に伝え続けるしかないが、困難さを感じる。
・福祉活動について、特定少数の人だけではなく、地域の多くの人が活動に参加し、少しでも活動が必要だという価値観を持つ。
・子どもに声かけはできません。逆に変なおじさんと思われます。
・人それぞれ言葉の取り方が違うので、あまり深入りしない方が良いと感じました。
・当地域では空き家が非常に多くありすぎます。外国人もいくらか入居しておりますが、もっともっと入居した方が良いかと思います。
・毎月、ふれあいサロンを行い、いつも 10 人以上参加しています。行う日の 10 日前に行う内容について回覧を行い、更に多くの方が参加して交わりを深めて、行っていきます。内容は、椅子体操、玉入れゲーム、カラオケの歌会、個人的に交わり。
・役員の不足、行事などの参加、協力　毎月のふれあいサロンでカラオケや会話、交流、玉入れゲーム、イス体操を行っている。参加者満足しています。
・町会のサロンにもっと人が参加して欲しい。
・参加出来るのですが移動手段がない。団体への活動費の支援があるが額が少ない。会費を高くすると(個人)参加しなくなる。
・市の支援が必要。
・地域福祉活動を進めるうえで、今回きづな委員会になりましたが、個人的な負担金が思っていたより有ること。このような形だと次のなり手の人に頼みずらくなる気がします。負担金と力がある事

の説明もなかった。労力と負担金となるとなかなか今後のなり手が不安になります。(町内会での仕組みも違うのかもしれませんが)
・高齢化が進む中、無償でのボランティア活動には限界がある。
・車が無い事。
・高齢者の見守り。 声掛け。
・高齢化している町内会役員の担い手をどのように発掘したらいいか先が見えず困っている。世代間交流を望む。
・地域の住民に声を掛け合い、いきいきサロンなど通して高齢者や子育て世代も参加できる交流の場づくりが必要だ思います。 ・一人暮らしの人にも、声をかけ、見守りながら、サロンの場にも参加してもらえるようにする。
・災害が心配です。災害時の高齢者対応が気になります。
・老後の新たな選択肢の高齢者のシェアハウスに興味を持っています。
・年々、回りの方が自分を含めて、年配の方々が多くなり、一人暮らしの方がすごく増えて、助け合いが必要としています。声掛けが大事だと思います。
・情報が伝わらない。 ・市や社会福祉である程度、町内会等に丸投げ…もう少し方法考えよう!! ・若い人が関心がなさすぎる。(町内会等に)
・サロン活動に出て来る方が同じ方で、出て来ない方を呼ぶ事が大変。
・SNS を利用して広く住民の皆さまに、どんなことをどんなふうにやっているのかお知らせしたらいいと思います。スマホなどで見られない人は個人対個人の交流で地道に対応していくことが必要なのかと思います。
・高齢化が進んでいますので声かけが大事だと思います。
・若者の育成が必要。今は 80 歳過ぎても現役で働いている人が多いので、地域福祉活動が…
・私自身、夫の通院、私の通院と自宅の畑、庭木などの手入れに大忙しなのであまり地域福祉に参加していませんが、朗読ボランティアで広報読みができる間はやっていきたいと思います。近所に一人暮らしの方がふえています。声かけはしていきたいと思います。
・自身の知識、能力の向上を目指すこと。
・登別市では無理と思う。
・住民の高齢化に伴い活動が弱小する傾向にあり、いかに若い世代との繋がりを密にして行いが課題となる。
・個人的に仲良くなった人に TEL を聞いとおく。日頃からお茶のみなどで仲良くなる。
・個人情報法の保護、不審者の増加などから、中々気軽に声をかけづらくなっている。(特に子供・若者世代に対して) また、あまりにも支援し過ぎると、受け身の人を増やしているように感じる。そのうちに活動する側が疲れて担い手がいなくなる。
・福祉活動をする側、される側両方でお菓子等をつまみながら、ざっくばらんな意見交換の場があっていいと思う。
・最近高齢者の多くが困っているのが高齢の買い物です。近内シャトルバス運行があるようですがよい結果が出るといいです。

・担い手が後期高齢者やその一歩前ということもあり、今後の活動がどうなるのか？高齢者同士のつながりと、お互いの助け合いが必要と考えている。
・町内会を担っているものとしては、まだ余裕がありそうな方々が隠居のような生活をしており、町内会に対し、積極的な協力を望んでいる。
・シニア層の参加を望みます。
・若い方の参加が必要かと。地域の良さを若い世代に伝える。
・現在の個人中心の社会に対して、これからの時代に求められる「持続可能な地域コミュニティに向けて」町内会や社協の現状分析や、今後の方向性を検討することが必要と考えます。
・地域の高齢化に供う、課題等の整理と実行。
・年代に関わらず多様な生き方、考え方があるということを尊重すべき。
・町会未加入高齢者に災害時の情報、支援が届かないのが心配です。
・地域福祉活動が未来永劫 SDGs にやれるためにも退職者や学生なども参加していただく仕組みづくりが必要と思います
・福祉活動の押し売りにならないような活動が大切と思います。
・若い人達が福祉活動に参加する事により、自分の世界観が広がり多くの“人の役に立つ事”にほこりと感謝を持てる様に成長してもらいたい。
・自分も高齢となり思うように体が動かなくなりました。これからは多くの若い方々が活動に参加して頂けるよう育成が大切と思います。
・住民ひとりひとりが一つの事柄に対して自分事と捉え、どうしたら良いかお互いに力を出し合い、支え合う、人の事を批判しない。
・年配者と若い世代の隔たりが大きく、この隔たりを少しでも縮めるためには中間層の活躍を期待したいと思います。
・小地域ネットワークの充実、見回るメンバーを増やしたい。 ・サロンの参加者を増やしたい。
・地域福祉活動を進めていくうえで、例えば町内会では役員のなりてが無く、又役員の高齢化が進んでいる。いかに町内会へ加入してもらうかの方法を検討して、加入促進を図っていく事が必要だと思う。
・地域環境美化など声かけ合って活動できるとよい
・各小学校区にサロン、交流の場を兼ねた子ども食堂があると良いなと思います。子どもや料理が好きな方、何かお手伝いがしたい方々と、居場所のない子ども達や孤立した方々をつなぎ、支え合える場所が地域ごとにあるまちにしていけたらと思います。市が活動費を含めた全面的にサポートでスタートし、少しずつ地域主体へつないでいけると良いのではと思います。
・「凡事徹底」を地道に実践・維持する！
・地域の方々と関わってまだ数年しか経っていませんが、一番強く感じたことは、この地域に引っ越ししてからずっと仕事一筋で、地域には無関心でした!! 今働いてる若者達に少しでも地域福祉活動の良さ、必要性を理解してもらわなければ、今後のより良い地域にはならないと思いました。

・高齢者が中心に活動しているが限界がある。若者から60才代は皆さん働いている。70才でも働いている人。世代交代の難しさ有り。町会活動に対しての関心がない様だがこれに対しては、私共の働きかけに問題があるのか？
・地域にどのような活動団体があるのかわかりません。社会福祉協議会のホームページの載っているのでしょうが、パソコンなどが無いので見られないです。しんた21のIF のパンフレットコーナーなどに活動団体の資料やパンフレットがあると良いと思います。
・高齢化社会のため、自助出来る方は自助力の向上。自助出来ない方は重点的支援につながる仕組み取り組みが必要と考えます。
・町内会の役員の高齢化が進んでいるので、今後若い世代の親に引き継ぐためには、何故町内会が必要なのか、どんな役割をしているのかを知らせると共に、若い世代の親の意見や要望を知る機会も必要だと思います。
・声かけの実施
・町内会に加入する世帯が少ないのでお互いの生活環境を改善しないといけない。
・理解してもらうように丁寧に説明する事が大事。
・住み慣れた地域でひとりひとりがきずなを固く結び合わせ「ほっとけない」を合言葉に支え合い助け合って誰も安心して暮らせる明るい地域づくりを目指し、更女会活動の輪を広めて参ります。
・サロン活動での居場所づくりや相談事などを話し合えることの必要性。専門機関へのつながりが出来る事。訪問活動も必要かなど、いろいろありますが、同じ顔ぶれで中々新しい方が参加してくれません。後員の担手不足!!
・同上　回覧だけでなく一斉参加をうながす。
・地域活動状況と参加型するための、方法を町内会に具体的に伝えて１人１人に情報を伝える回覧を作るのはどうでしょうか？町内会でも役員や一部の人には伝わっているようですが、一般の町内会人には伝わっていないような気がします。
・独居老人や手足不自由者への声掛け、体力的な支援
・福祉活動、特に民生委員の選定では、町内会に丸投げの状態である。もっと市の職員の関わりを求める！
・地域の活動を進めるために必要な人が、年々高齢になり若い人がなかなか活動に参加して来ない。先々の継続が心配。
・地域バスを早急に検討をお願いします。高齢者が年とともに多くなり、習い事をする会場まで徒歩で来るのが限界があります。私達のサロンの年齢は 70～85 歳、19 人で月 1 回体操しています。
・①隣近所と交わりを持つこと。 ②自分の殻にとじこむことを止める。
・若い人へつなげること(知ってもらうこと)
・意味もなくバカでかい市役所を立てる金があるなら、福祉活動にもっと予算を図すべきだと思う。
・サロンも集団化してしまうと、初めての方が参加しにくい雰囲気になってしまうので、新しい取り組みを考えながら、誰でも参加できるような運営が必要と思う。
・若者と交流と高齢者に対するリハビリ、脳トレ等の講座を多くしてほしいです。
・若い人の参加がとても大切。つながれると良い結果が出ると思う。若い活力が欲しい。

・町会長・民生委員が相談しやすい関係を持つことが大切。・高齢者一人暮らしの方をいかに外に連れ出すことが出来るか。
・関心を持ってもらえること(SNS の活用)
・高齢者世帯への」手助け(高齢夫婦)
・一般的に「助けて／受けて」の固定化をなくすことと言われます。「高齢者や支援が必要な人＝助けられる側」「元気な役員＝助ける側」という二極代をなくすことが重要です。高齢者や子供であっても、できる範囲で「地域の力」になってもらう場面作り「役割」があることによる生きがい作り。「助けて」といえる関係性(受援力)の醸成と思う。孤立を防ぐためには、支援を頼む事を恥ずかしがらないで雰囲気づくりや、普段からの気軽な雑談(居場所づくり)が必要ではないでしょうか。
・ボランティアをしていますが、会と行政の繋がりが希薄に感じます。 行政は、福祉活動は団体任せ、内容を深く理解しようとしていない気がします。 行政が学び、発信して福祉活動を牽引していく体制が欲しいと思っています。
・役員の高齢化対策としての若手の参加推進
・1 人で生活してる人がたくさん居る中で 家族が心配している人もたくさん居てその人達に連絡を取り報告出来るシステムなどがあれば良いと思う 自分は大丈夫と思ってる人も認知所の問題など心配も有る
・若い働き手を育てる。積極的に声をかけ、
・福祉活動する人の年代が高く、若者の参加が必須だと思う。
・ボランティア活動の中で、個人的ないじめがある。また、私物化している人がいる。
・SNS を通じたデジタル化 町内会の回覧板は LINE でいつでも見れる環境が必要
・活動の仲間を増やすこと
・活動内容や、存在をもっと知ってもらう。
・次世代への引き継ぎ
・障がい者が気軽に利用できる、講座(ストレッチ・ウォーキング・手芸・料理・書道など)をやって欲しい。
・1.町内会、老人クラブの会員数減に歯止なく、役員(世話役)の後継者もみつからない。 2.ご近所同士での声掛け、見守り、助け合いが必要。
・高齢化が進んでいる中で、だんだん町内会の役員のなり手も居なくなりやり方もかわっていくと思うので若いうちから町内会にかかわり世代交代していけるのが理想だと思う、一人暮らしや身寄りの無い方の把握をしっかりしていく必要があると思う、介護認定などを受けて無い方でも認知症の始まりは家族も気付くのが遅く地域の方の見守りや気付きが必要だと感じている
・町内会に参加されている方はとても熱心に頑張っておられますが、高齢化が進んでいます。70 代の方たちが頭が下がるほど動いてくださっていますが、もっと若い世代にもどんどん入ってきてもらえるようにしていく為にはどうしたらようのかなと日々考えています。
・今感じているのは、高齢化による免許返納を視野に活動、行動しているが、交通手段の確保、ボランティアで運転活動していただける人の活用(車両は行政で貸与?)

・最小である近所のつながりが気薄に感じる。せめて隣三軒くらいの声掛けあいさつ 立ち話などでもよいのでつながりが少ない。
・独居老人が多く、町内と接する事が少ないので声掛けなど見守りが必要。
・いろいろな福祉団体、グループがあるが、横のつながりを知る事、機会があるといい。
・地域福祉活動を進めるには、町内会単位での活動になるが自然な流れだと思うし、住民の皆に動きがよく見え浸透していくと思います。しかし今や町内会は高齢化や無関心により、役員のなり手が無く、機能しなくなっているのが現実です。町内会独自の活動も人で不足により縮小され、清掃活動等の参加者も減っています。以前は町内会が中心になって行っていた葬儀も、今では家族葬が多くなり、住民同士が顔を見合わせる機会がほとんどありません。このように住民同士のつながりが気薄な状態では福祉活動がうまく進まないと思います。今後必要だと思うことは、近くに人々が気軽に足を運んで、世間話ができるような場所があるといいと思います。皆でワイワイ身体を動かしたり歌ったりして会話する中から、色々な情報が集まるのではないでしょうか。子育てサークルや子育てサロン、子育て支援センター合同での企画を催して親同士の交流を図り、さらには若い親たちにも企画、段階から加わってもらい一緒に何かを作り上げる楽しさを味わってもらうのも良いと思います。楽しかった経験は後々大きな力になると思います。負担軽減や区立化を図るために、デジタル化が進むことで、人と人との交流が無くなり、地域の結びつきも弱くなると思います。デジタルに私達高齢者は情報から取り残されるのではないかと心配になります。
・活動の進め方として根気よくコンタクトする必要があり、結末はすぐ求めるべきではないと考える。
・何をやるにしても人との関りがむずかしい世の中です。(無関心な人が多すぎます。)
・押し付けのない活動
・世代をこえた交流や情報を交換できる場所
・高齢者やサービスを必要としている人に、相談すると何でも優しく教えてくれる連絡先の周知
・ご活躍の中心のリーダーさんが、永年やってくださっていて、また複数兼務されておられるようです。ひろく、いろいろな方で取り組んでいけば、もっと活動がひろがっていくような気がします。
・私自身は今まで充分活動してきたつもりなので、若い人達に頑張って欲しいです。
・若手の参画
・地域福祉活動を進めるためには、どの様な事が行われているのか冊子等に纏めて家庭に定期的に現状の内容を加えて発信する。
・わからない
・必要な情報を必要な人が手に入れる手段が少ないです。 例えば町内会に加入してなかったりSNS でも探せなかったり、情報をどう届けるかが課題だと思います。
・若い人にもっと参加してもらいたい。
・担い手を増やすこと。
・民生委員の成り手がいないので、今後の見守り活動が難しくなる。
・今、日本中に災害が次々と起きています。その想定外と言われる対応にどのように行動すれば良いのか、具体的な話し合いの場が必要だと思います。

・長年続けられている人はありがたいが、ボス的になっては次世代が育たない。成り手がないのも問題だし、若い無関心な人も多いのかなと思う。
・1，担い手不足の解消　2，各地域住民と身近な組織との協力活動
・私はまだ、車運転で移動できますが、80才を超えておりますので、80才時より妻以外は車に乗せないことにしています。(大切な人に何かが起こっても対処出来ないからです。責任が持てないからです。)その為、以前は出来た同伴買物・病院送迎・庭の除草・除雪・生息処理も出来なくなっております。以前はお世話になった方等を車に乗せて　桜・ラベンダー・芝桜・チューリップ・ユリやオープンガーデン廻りや紅葉・絶風景廻りも出来なくなり、今では逆に乗せてもらって楽しませてもらっております。来客も年々減ってきており、段々と近づいていると感じております。現在一番の心配事は、地震・津波等災害に安全　場所に早く非難出来るか否です。ゆっくりとコーヒー、紅茶を飲みながら読書したり交流できる図書館を建築してほしいです。
・若者層への引継ぎ
・限られた方ばかりではなく、自由に参加できる環境だよ出席しやすいかもしれません
・時代の変化と、科学の進歩での生きずらさの格差対応が難しさを感じる。交流より自分優先社会の考え方が進み何で会費払って、活動しなければと最近よく聞かれる。
・今後必要だと思われる活動の一つとして、空き家の増加に伴う環境と治安の悪化が有り、特に環境面(草木の繁茂)に起因すると思われる。ゴミ(空缶、吸殻、弁当殻等)のポイ捨てや不法投棄に対し、行政を巻き込んだ防犯活動が必要だと思います。
・一部の人達に任せきりの状態になっている。その人達に忙しい姿を見て、尚更関らずに生活していきたい。と思う方も多いと思うので良くない方向に進んでいる感じがする。大人数いれば負担にならない活動もあるので、ちょっとした活動に関わってもらえるような取り組みや繋がりづくりを進めていく必要がある。
・月1回のまごごろレター(継続必要)　・月2回町内会回覧(継続必要)　数少ない、安否確認やコミュニケーションの機会。及び外からの見守り・・・大切!!
・なり手が少ない。もう少し人がいないと活動展開が思ったより出来ないと思う。　・40～50　才の人の参加がもう少しあっていい。年配の人達だけでは、若い人達向けの活動はジェネレーションギャップがありすぎて、まれに的外れ的な場合あり。
・活動の場及び参加者を増やすこと。
・現在福祉活動を推進している人は高齢者がほとんどです。世代交代も含め、若者を企画する側に取り組み、特に若者を企画の中心にして推進してほしい。
・活動を起こす人材が声をあげる地域であって欲しいものです。地域の人材バンクを増やし紹介していく。
・活動の内容などもっとアピールすべき
・情報発信と気軽に参加できる雰囲気を作る。
・地域の連帯感を増すという意味で、お祭りがないのが大きな痛手。
・年代別にアンケート、3年に1度

・高齢になって健康の為ウォーキング(散歩)するが、どこを歩いても休む場所がない。町のあちこちにベンチや腰かけがほしい。
・お互いに支え合って、助け合える環境づくりには行事や活動への参加、声掛けに励むことが望ましいと思うます。
・若い世代の参加を増やす事、その上で高齢者を地域全体で支える。行政、社会福祉協議会の連携デジタル等の活用。
・高齢化が進む中、地域での見守りや声掛け、困った時に支え合える関係づくりがますます重要だと感じてます。今後は、町内会だけではなく子供や若者、福祉関係、行政などが世代を超えて交流できる機会を増やし、誰もが安心して暮らせる地域づくりを進める事が必要だと思います。また、災害時にも助け合える体制づくりを進めていきたいです。
・地域住民、1人1人の意識を高める必要がある
・迷惑をかけたくない気持ちが強いため、ボランティア活動はかなり難しくなってきているとは思います。特に本会は重度の方が多いので。また多様化もあるし、考え方も個々それぞれ違うのでまとめる活動も難しい。・若い世代は共働きがあたり前の時代なので働く時間の方が長いことから、企業に向けてボランティア活動の情報を発信したりするのはどうかと思います。
・友人同士、月に一度、食事会をして近況報告
・現役世代だが時間を作ることがなかなかできない。職員を通して福祉活動が充実できると良い。
・"あいさつや声かけは大切。一人暮らしをしている方で知り合った方には声かけ"
・活動しようとする人の思いが強いことが大切だと思います。
・"参加する人は、いつも同じで若い方はいない。
・運営する人も70歳、80歳と頑張っています。
・もっと若い人に福祉活動をしてほしい。"
・一人で生活している人にどのように町会に参加していただくか!!

問 14 あなた自身がこれからも続けたいと思う、普段の暮らし方を教えてください。(3つまで)

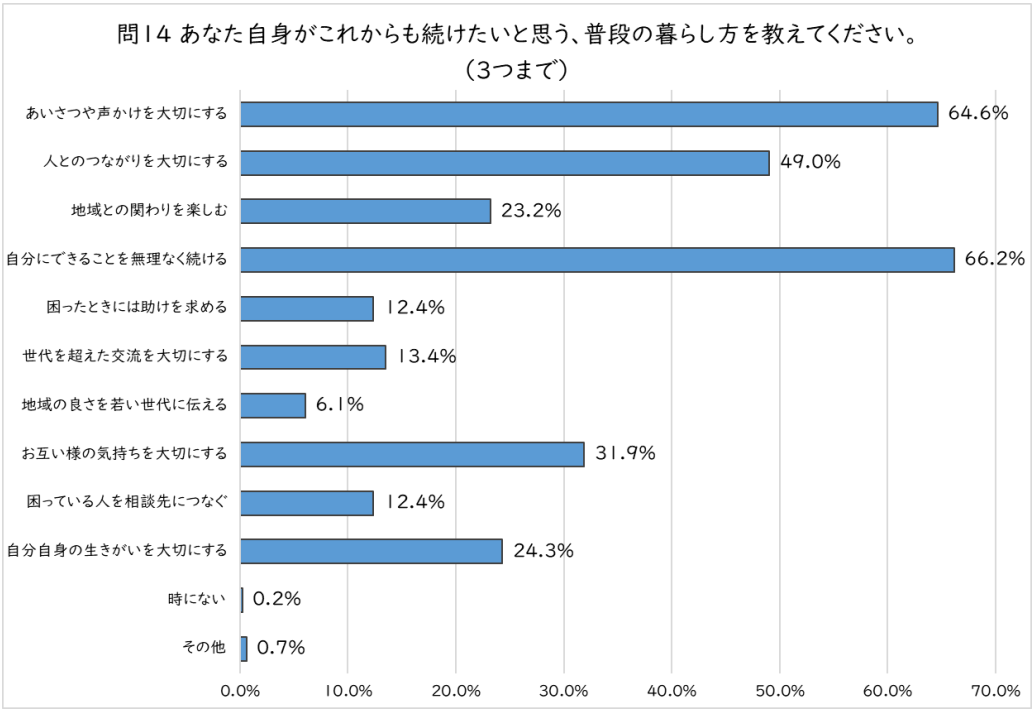
選択肢・項目	回答数	割合
あいさつや声かけを大切にする	298	64.6%
人とのつながりを大切にする	226	49.0%
地域との関わりを楽しむ	107	23.2%
自分にできることを無理なく続ける	305	66.2%
困ったときには助けを求める	57	12.4%
世代を超えた交流を大切にする	62	13.4%
地域の良さを若い世代に伝える	28	6.1%
お互い様の気持ちを大切にする	147	31.9%
困っている人を相談先につなぐ	57	12.4%
自分自身の生きがいを大切にする	112	24.3%
時にない	1	0.2%
その他	3	0.7%

自由記載:

・高齢の為、活動が出来ないことを申し訳なく思う。

・私は今の所、家族と同居なので大きな悩み等はありませんが、高齢の方々の独居のお話をお聞きしますと大変さは感じとっています。

・1 自分と周りの方を大切にする。



第５期登別市地域福祉実践計画「きずな」策定に係る
地域福祉実践者アンケート

～これからのきずなづくりに向けて～

きずな推進委員会と登別市社会福祉協議会では、市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指し、第5期登別市地域福祉実践計画「きずな」（令和9年度～令和13年度）の策定を進めています。

地域福祉を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少、地域のつながりの希薄化、生活課題の複雑化・多様化など、大きく変化しています。こうした中で、地域の実情を最もよく知る皆さまの声は、これからの地域福祉を考えるうえで欠かすことのできない貴重な情報です。

このアンケートでは、日頃の活動を通して感じている地域の現状や課題、支え合いの様子、今後必要だと思われる取組などについてお伺いします。

いただいたご意見は統計的に集計・分析し、本計画の策定や今後の地域福祉活動の充実に活用させていただきます。個人が特定されることはありません。

この計画は、行政や社会福祉協議会だけでつくるものではありません。地域で暮らす人、活動する人、働く人、それぞれの経験や想いを重ねながら、これからの登別市の地域福祉を描いていく計画です。

日頃の活動を通して感じていることや、地域の強み、これから必要だと思うことをお聞かせください。

きずな推進委員会
社会福祉法人 登別市社会福祉協議会

≪インターネットでの回答について≫

本アンケートは、インターネット上でも回答することができます。

次のURLを入力、もしくは右のQRコードを読み込んで回答ください。

※インターネットで回答される場合は、本アンケート（紙媒体）の提出は不要です。

※全 14 問、回答の目安は 10 分ほどです。

【調査期間　令和8年8月3日～令和8年8月21日まで／同封の封筒に切手を貼らず返送ください】

■あなたのことについて

問１　あなたの性別を教えてください。（1つ）

1.男性　　2.女性　　3.回答しない　　4.その他（　　）

問２　令和8年8月1日現在の、あなたの年齢を教えてください。（整数で記入）

（ 例　65歳10ヶ月 → 65 ）

＿＿＿＿＿ 歳

問３　あなたのお住いの小学校区を教えてください。（1つ）

※きずなでは、小学校区を”暮らしの圏域“として捉えていることから、統合のあった幌別東小学校区についても選択肢としています。

1.登別小学校区（登別温泉町、上登別町、カルルス町、中登別町、登別東町、登別港町、登別本町、富浦町、札内町 381 番地）

2.幌別東小学校区（幸町、幌別町、新栄町）

3.幌別小学校区（中央町、常盤町、千歳町、来馬町、札内町(札内町 381 番地除く)）

4.幌別西小学校区（富士町、新川町、片倉町、柏木町、川上町、鉱山町）

5.青葉小学校区（緑町、桜木町、青葉町、大和町 1 丁目、若山町 1･2 丁目）

6.富岸小学校区（新生町、富岸町、若山町 3･4 丁目、栄町 3･4 丁目、大和町 2 丁目）

7.若草小学校区（美園町、若草町、上鷲別町）

8.鷲別小学校区（鷲別町、栄町 1･2 丁目）

問４　あなたの携わっている福祉活動を教えてください。（複数）

1.町内会･町会･自治会　　2.民生委員･児童委員

3.サロンサポーター　　4.NPO 法人

5.ボランティア団体　　6.個人ボランティア

7.きずな推進委員会　　8.ボランティアアドバイザー

9.ファミリーサポート会員　　10.その他（　　）

問５　主として携わっている福祉活動を教えてください。（1つ）

1. 町内会・町会・自治会　　2. 民生委員・児童委員

3. サロンサポーター　　4. NPO 法人

5. ボランティア団体　　6. 個人ボランティア

7. きずな推進委員会　　8. ボランティアアドバイザー

9. ファミリーサポート会員　　10. その他（　　）

問６　主として携わっている福祉活動の１カ月あたりの活動日数を教えてください。（1つ）

1. 1～5 日程度　　2. 6～10 日程度　　3. 11～15 日程度

4. 15～20 日程度　　5. 21～25 日程度　　6. 25～30 日程度

■地域の現状について

問７　地域住民同士のつながりは 20 年前と比べてどう変化したと思いますか。（1つ）

1. 強くなった　　2. やや強くなった　　3. 変わらない

4. やや弱くなった　　5. 弱くなった　　6. わからない

問８　過去1年間で、地域住民から個人的に頼まれ、行った経験のあること、その頻度を教えてください。（各項目につき1つ○）

No.	項目	頻繁にある	たまにある	一度だけある	ない
1	話し相手				
2	相談相手				
3	緊急時の手助け （救急車の手配、親族への連絡など）				
4	買物代行				
5	買物同行				
6	掃除や片付け、ごみ出し				
7	草取りや庭の掃除、庭木のせん定				
8	雪かき				
9	ちょっとした手伝い （電球交換や灯油ポリタンクを運ぶなど）				
10	外出の手伝い（買物、金融機関など）				
11	通院の手伝い（院内付き添い、送迎など）				
12	散歩の付き添い				
13	鍵の預かり （安否確認や緊急時の備えなど）				
14	郵便物の確認（内容の確認や代読など）				
15	病児の支援 （軽度の風邪や発熱の乳幼児・児童の預かり）				
16	食事の提供				
17	入退院時の支援 （着替えの準備や入退院の付添など）				
18	ペットの世話				

問９　今後、地域の中でより重点的に取り組む必要があると感じることを教えてください。（複数）

1. 高齢者の安否確認、声かけ
2. 認知症高齢者の見守り、専門機関へのつなぎ
3. 障がい者の安否確認、声かけ
4. 子どもの登下校の見守り、声かけ
5. 子育て世帯の見守り、専門機関へのつなぎ
6. 身寄りのない方の見守り、専門機関へのつなぎ
7. 買物、金融機関などへの外出の手伝い
8. 付添、送迎など通院の手伝い
9. ごみ出しの手伝い
10. 雪かきの手伝い
11. 掃除、洗濯、調理など家事の手伝い
12. サロン、交流の場などの居場所づくり
13. 体操、脳トレの実施などの介護予防活動
14. 避難支援、安否確認、要配慮者への支援などの災害時支援
15. 生活に困窮している方の見守り、専門機関へのつなぎ
16. 不登校の子どもがいる世帯の見守り、専門機関へのつなぎ
17. ひきこもりの方がいる世帯の見守り、専門機関へのつなぎ
18. ヤングケアラーがいる世帯の見守り、専門機関へのつなぎ
19. 障がい者の社会参加のきっかけや場づくり
20. 虐待の疑いがある世帯の見守り、専門機関へのつなぎ
21. 空き家の見回り
22. ごみ屋敷の状況にある世帯の見守り、専門機関へのつなぎ
23. 地域活動の担い手不足
24. 福祉の情報が必要な人に届かない
25. その他（　　）

■これからの「福祉でまちづくり」について

問 10　地域住民が活躍できる地域をつくるために必要と思うことを教えてください。（複数）

1. 活動情報が発信される
2. 参加するきっかけがある
3. 気軽に参加できる機会がある
4. 役割が見える化されている
5. 小さな活動から参加できる
6. 自分にあった役割が見つかる
7. 活動成果を共有する
8. 交流機会が充実している
9. 団体への活動費の支援がある
10. 個人への活動費還元やポイント制度がある
11. 気軽に参加できる拠点がある
12. 一緒に参加できる仲間がいる
13. 活動をつなぐ、相談できる人がいる
14. 移動手段がある
15. 時間的なゆとりがある
16. その他（　　）

問 11　　若い世代と一緒に地域づくりを進めるために必要と思うことを教えてください。（3つまで）

1. SNS の活用
2. 学校（小学校、中学校、高校）との連携
3. 大学・専門学校との連携
4. ボランティアの体験
5. 地域についての学習
6. 子育て世代向けの企画
7. 短時間でも関われる取り組みの充実
8. 気軽に関われる機会
9. 企業との連携
10. 活動内容の見直し
11. ベテランと若手の交流
12. 活動の見える化
13. その他（　　）

問 12　子ども・若者世代に伝えたいと思う地域の良さ、強みを教えてください。（自由記載）

問 13　地域福祉活動を進めるうえで感じていることや、今後必要だと思うことを自由にご記入ください。（自由記載）

問 14　あなた自身がこれからも続けたいと思う、普段の暮らし方を教えてください。（3つまで）

1. あいさつや声かけを大切にする
2. 人とのつながりを大切にする
3. 地域との関わりを楽しむ
4. 自分にできることを無理なく続ける
5. 困ったときには助けを求める
6. 世代を超えた交流を大切にする
7. 地域の良さを若い世代に伝える
8. お互い様の気持ちを大切にする
9. 困っている人を相談先につなぐ
10. 自分自身の生きがいを大切にする
11. 特にない
12. その他（　　）

～アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。～